

永平寺町都市計画マスタープラン

【概要版】



公共施設や商業施設、住宅等が集積する『松岡地区の市街地』



再整備された『大本山永平寺』門前地区の『旧参道』、『永平寺川』、『親禅の宿 柏樹閣』



山なみを背に、町の中心を流れる清流 『九頭竜川』



令和4年6月
永平寺町



都市づくりの目標

■ 将来都市像

心ふれあい 人つながる 「住み続けたい」 緑のまち

清流【九頭竜川】に代表されるこのまちの「自然」や【大本山永平寺】に象徴される「歴史・文化」の豊かさなど、かけがえのない資源を大切に、町民相互はもちろん、訪れる人を含め永平寺町に縁のある人々の「心」が時代を越えて通い合い、私たちや私たちの子や孫の世代が大好きなふるさととして心から「住み続けたい」と思うことができる「緑(うるおい・環境重視)」のまちを創造していきます。



校舎に向かい、校門前で毎日一礼する生徒

■ 都市づくりの目標

目標1 活力とにぎわいを創出する多様な拠点の形成

地域が有する固有の歴史・文化・自然資源や立地条件を活用して、観光交流や新たな産業など、活力とにぎわいを創出する多様な拠点づくりを戦略的に進めるとともに、計画的かつ効率的で、調和のとれた土地利用を推進します。また、住み慣れた地域での暮らしを支えるために、暮らしの拠点の機能強化を進めます。

目標2 交流を支える軸の形成

少子高齢化社会における地域の持続性や都市の産業活動を支えるため、中部縦貫自動車道を活用した交通網の整備とともに、公共交通ネットワークを確立し、町内外での交流を支える軸を形成します。

目標3 快適で暮らしやすい質の高い市街地の形成

次世代の暮らしやすさを確保するためのきめ細やかな土地利用を推進するとともに、住民の身近な景観の価値を高める景観都市づくりを推進し、安全・安心に生活できる環境を兼ね備えた質の高い市街地を形成します。

目標4 豊かな自然環境との共生

住民の誇りである豊かな自然を保全するとともに、住民の暮らしにうるおいを与える資源としての活用を進め、自然環境と共生できる都市づくりを進めます。

■ 将来都市構造

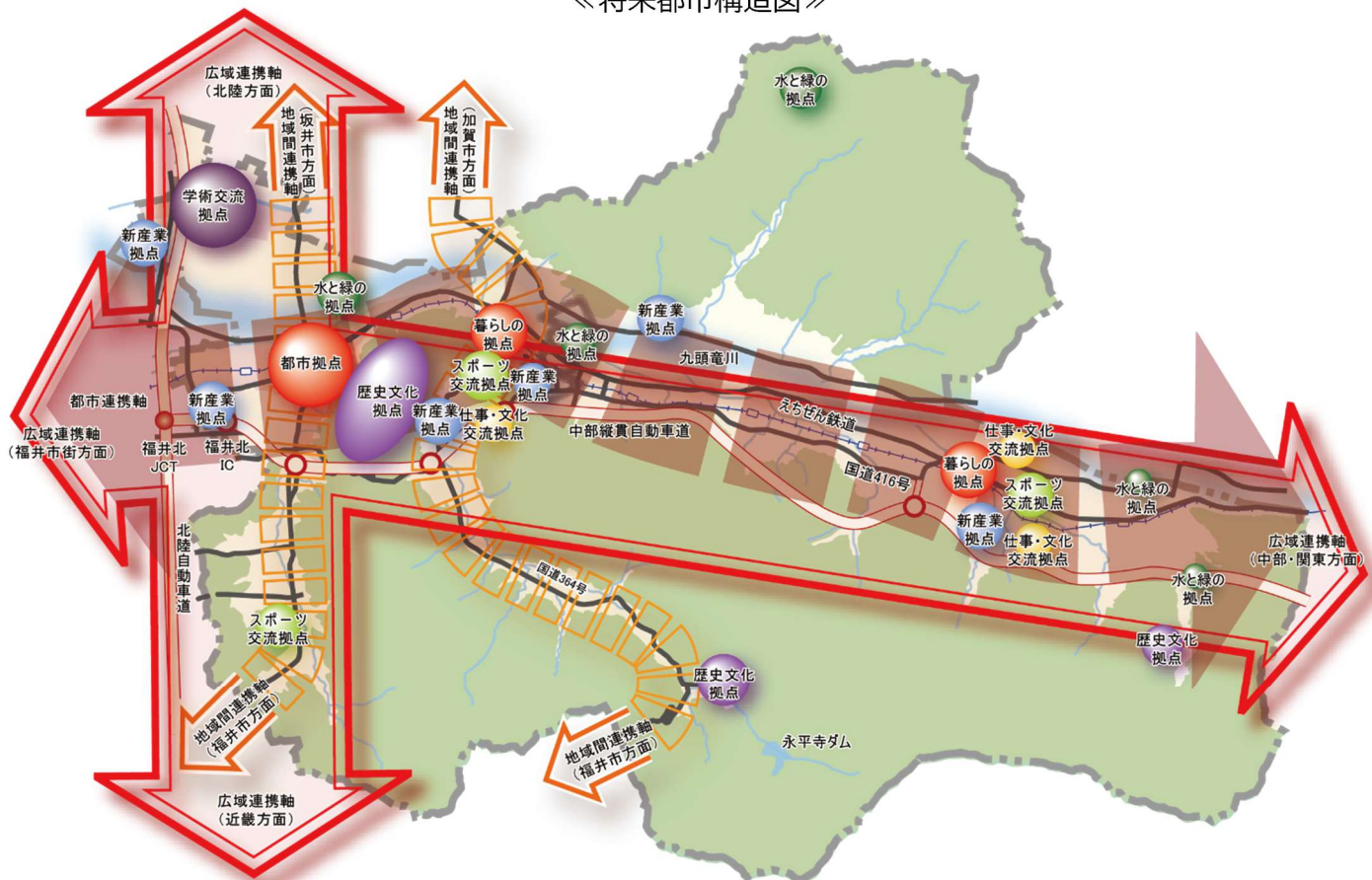
優れた自然景観を維持・保全しつつ、中部縦貫自動車道の整備効果を積極的に活用します。人口減少が予測される中、無秩序な宅地化や空き家の増加等の居住環境の低下を防ぎながら、定住促進に向けた快適で質の高い生活空間の創出を図っていきます。

●土地利用の基本的な考え方

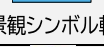
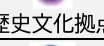
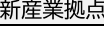
市街地地域	松岡市街地(市街化区域)は、本町の中心市街地として都市サービス機能や行政・文化サービス機能の維持・充実を図るとともに、空き地・空き家の利活用等の検討、えちぜん鉄道各駅の利便性の向上などにより、住みやすい生活空間を創出します。 御陵市街地(用途地域)は、学術研究都市として、地域に開かれた学びの場となる交流拠点の創出や、情報、文化、商業機能等の充実を図り、多様な人が学び、集う環境づくりを進めます。
田園地域	田園地域内の市街地は、日常生活に不可欠なサービス機能の利便性を確保しつつ、安全で快適な住環境の創出と沿道環境の整序を図ります。 農村集落は、良好な集落環境を維持しつつ、田園風景との調和を図ります。また、地域コミュニティの維持を目的とする開発の適正誘導を図り、集落の地域社会を維持します。
森林地域	本町を縁取る貴重な森林地域は、今後も眺望や緑が有する多面的な機能に配慮しつつ、調和のとれた保全と活用を進めます。松岡古墳群一帯は、眺望を活かした歴史体験型レクリエーション機能の充実、蔵王山～松岡総合運動公園一帯は散策空間づくりやスポーツの拠点を目指します。

都市づくりの目標

《将来都市構造図》



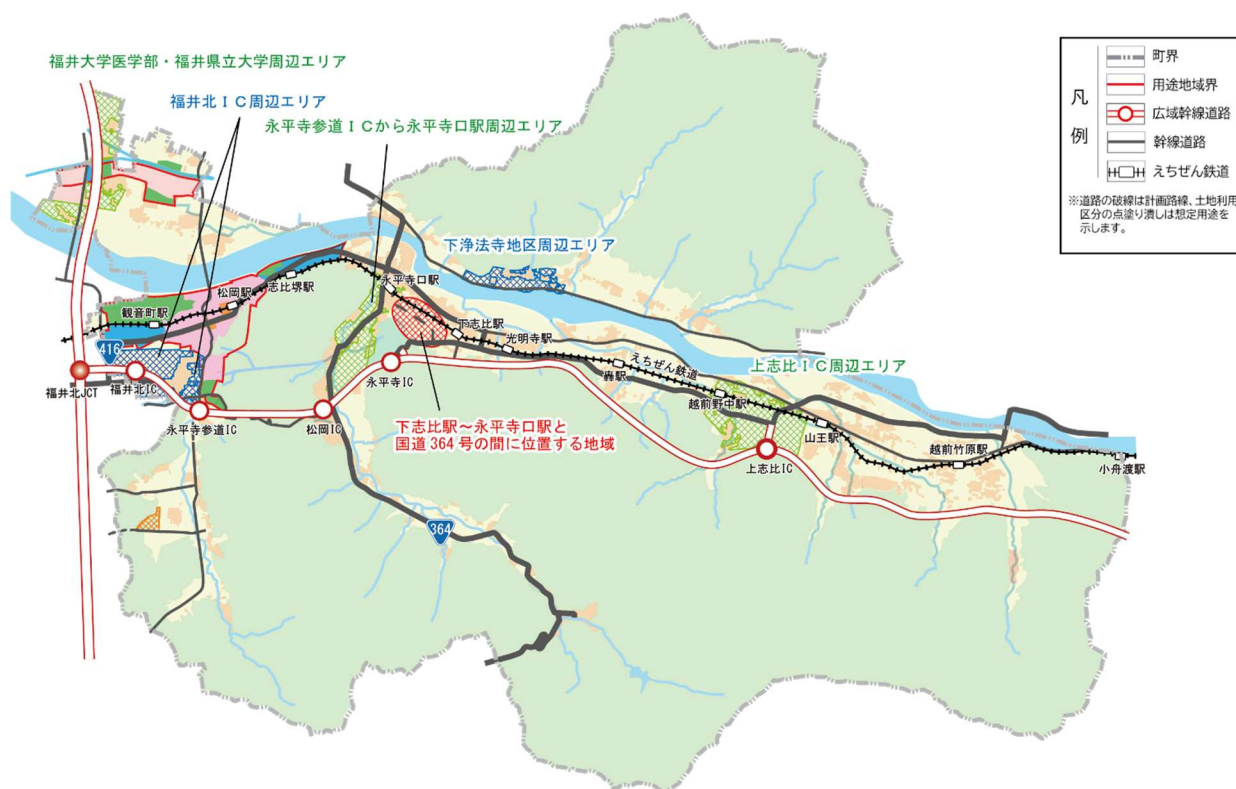
●軸と拠点の配置方針

名称	基本方針
 広域連携軸	『北陸自動車道』、『中部縦貫自動車道』を広域的な人や物の流れを支える広域連携軸とし、中部縦貫自動車道の早期全線開通を促進します。
 都市連携軸	『えちぜん鉄道』は、利便性に優れた人と環境に優しい公共交通の促進軸とします。『国道 416 号』は、道路機能の強化とともに、風格のある沿道景観の創出を促進します。
 地域間連携軸	『国道 364 号』、『(県)稲津松岡線』、『(県)勝山丸岡線』、『(町)花谷牧福島線』、『納戸坂線』等は、市町間の連携を強化する軸とし、広域かつ地域間連携を推し進める道路機能の強化を促進します。
 景観シンボル軸	『九頭竜川』は、景観シンボル軸とし、河川景観の保全を図るとともに、水と人との関わりを深める活用を促進します。
 都市拠点	『町役場』や『図書館』等が集積立地する拠点は、より一層多様な都市機能の集積を目指します。『松岡駅』を中心とした安全で快適な歩行者空間や身近なオープンスペースの創出等を目指します。
 暮らしの拠点	『永平寺支所』や『上志比支所』の周辺は、行政サービスや生活関連機能の維持・強化を図り、住民の便利で快適な日常生活を支える拠点づくりを目指します。
 学術交流拠点	『福井県立大学』、『福井大学医学部』周辺は、一帯を学術、情報、交流の拠点とし、町内外の人が集い、語らい、学ぶ場として、魅力的で文化的な空間づくりを目指します。
 仕事・文化交流拠点	『やすらぎの郷』、『サンサンホール周辺』、『永平寺温泉禅の里』、『四季の森複合施設』は、多機能施設が集積する環境を活かし、アクセス性の高い、誰もが集いやすい空間づくりを目指します。
 スポーツ交流拠点	『you me パーク』、『B & G海洋センター』、『ニッキー体育館』、『上志比グラウンド』、『緑の村ふれあいセンター・運動広場』の機能充実を図るとともに、誰もが集いやすい空間づくりを目指します。
 水と緑の拠点	『「松岡」・「永平寺」・「中島」の各河川公園』、『浄法寺山青少年旅行村』、『旧古峰寺キャンプ場周辺』は、誰もが気軽に楽しめる水と緑の拠点として、アクセス性の向上や機能充実、良好な景観づくりを目指します。
 歴史文化拠点	『大本山永平寺周辺』は、県を代表する歴史文化拠点として、『松岡公園・松岡古墳群周辺』、『吉峰寺周辺』は、地域の歴史・文化を継承する拠点として、景観づくりや魅力的な空間形成を目指します。
 新産業拠点	『福井北 IC』や『下浄法寺等』の地域未来投資促進法重点促進区域は、町の将来の発展につながるような秩序ある土地利用を進めるとともに、周辺環境と一体となった良好な景観づくりに取り組みます。

都市づくりの基本方針

■ 土地利用の方針

《土地利用方針図》

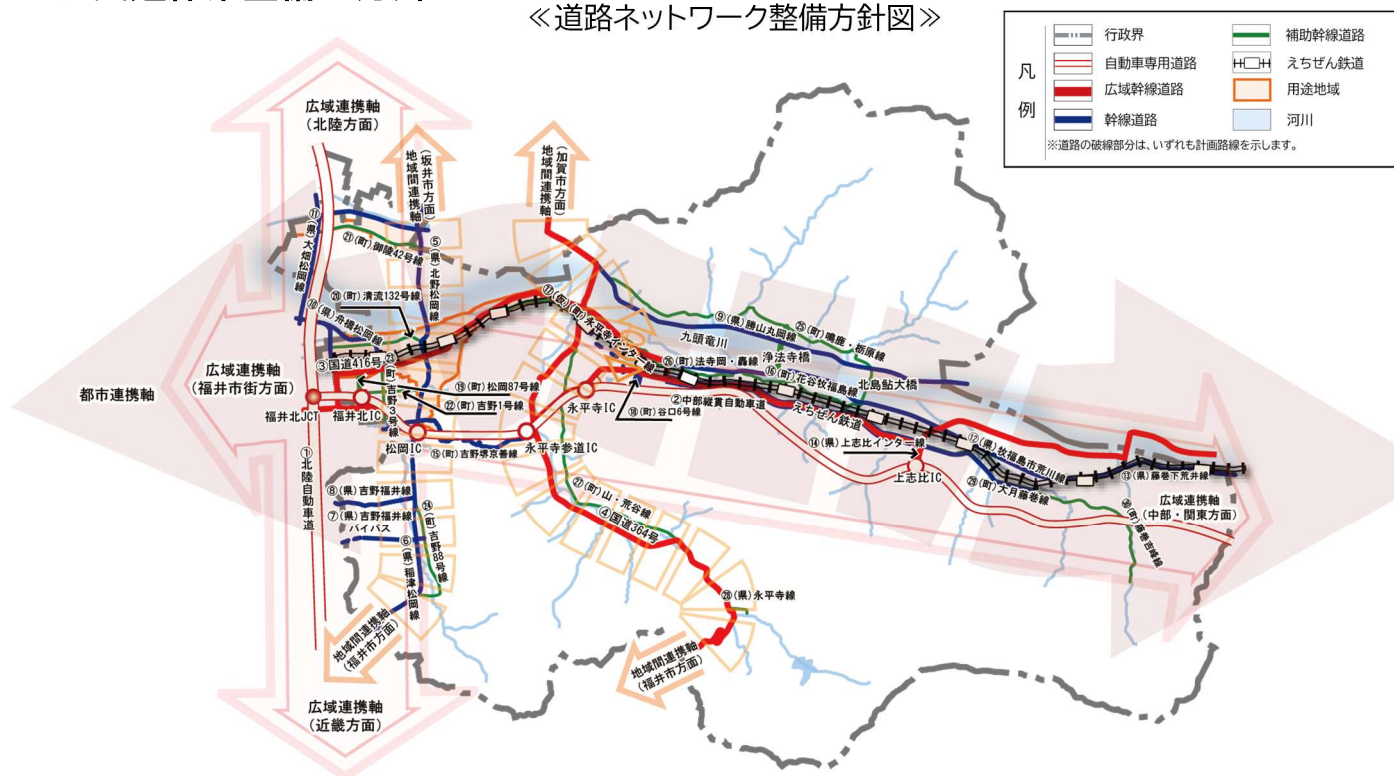


名称	土地利用や配置の方針
専用居住ゾーン	【土地区画整理事業による清流地区、志比界地区、御公領地区。開発行為により一体的に整備された住宅地】良好な居住環境を維持促進し、緑豊かな美しい街並みを創出します。
複合居住ゾーン	【松岡の過半を占める既成市街地】えちぜん鉄道の利便性の向上等、都心居住の魅力を高める住環境づくりを推進します。空き地空き家の利活用等を整備や方法を検討します。
都市サービスゾーン	【松岡駅～役場～国道416号沿線周辺】商業、行政サービス、福祉など多様な都市機能と、中心市街地にふさわしい、歩いて暮らせる都心居住機能の維持充実を図ります。
学術交流ゾーン	【福井県大、福大医学部周辺】地域に開かれた学びの場となる交流拠点の創出や、学術研究都市に適応した情報や文化機能の充実など、多様な人々が学び集まる環境づくりを進めます。
産業振興ゾーン	【繊維工場等と住宅が混在している志比界地区、芝原地区】地場産業の集積する工業地として操業環境の維持・向上を図りながら、居住環境に配慮した住環境づくりを推進します。
既存環境保全ゾーン	【永平寺市街地や上志比市街地、住宅開発された学園地区、西野中地区、けやき台、せせらぎなど既存の住宅地、集落地域、工場地】周辺の自然環境や土地利用との調和を基本としつつ、地域コミュニティの維持につながる開発は、基盤整備の担保や自然環境保全等を要件に、適正誘導を図ります。
田園環境保全ゾーン	【九頭竜川沿岸、荒川や永平寺川沿岸など、優れた田園環境が残る一帯】農業振興地域整備計画に基づき、優良農地の保全を図ります。御陵、永平寺、上志比地区の優良農地は、保全を図りつつ、地元貢献、雇用創出、観光につながる優良企業は適切に誘導します。
森林環境保全ゾーン	【町域を縁取る森林地域】水源涵養、災害防止、景観形成、木材供給などの多面的な機能の維持・保全に努めます。九頭竜川と一体となった眺望景観の対象として保全と活用を進めます。
新規産業エリア	【福井北IC周辺、下浄法寺地区周辺】地域経済牽引産業の集積を積極的に進めます。民間活力も導入しながら、企業が進出しやすい環境づくりを推進します。
新規産業誘導候補地	【県大・福大医学部周辺、永平寺参道IC～永平寺口駅周辺、上志比IC周辺】農地利用を保全し、乱開発防止に努めながら、社会情勢の変化等に応じて段階的な土地利用転換を目指します。
新規土地活用エリア	【(仮称)町道永平寺インター線周辺】農地利用を保全し、乱開発防止に努めながら、地域経済牽引産業の集積や既存集落を維持する住居系土地利用など、新たな土地の有効活用を検討します。

都市づくりの基本方針

交通体系整備の方針

《道路ネットワーク整備方針図》



基本的な考え方

【道路ネットワーク・機能の充実】

- ・拠点都市間を結ぶ高規格道路から町道までが一体として機能する道路ネットワークの整備を図ります。
- ・誰もが快適に暮らせる地域社会とするため、高齢者・障がい者にも使いやすい道路空間づくりを進めます。
- ・住民の生活に不可欠となる身近な道路は、住民との協働により、順次計画的な整備推進に努めます。

【公共交通ネットワークの強化・充実】

- ・えちぜん鉄道の主要駅周辺を中心とした公共交通ネットワークの形成と交通結節機能の強化を図ります。
- ・北陸新幹線福井開業に対応し、町内観光地へのアクセス向上を図るため、広域的な交通手段の確保を図ります。

【歩行者・自転車ネットワークづくり】

- ・徒歩や自転車を利用した外出を誘発するネットワークを形成し、安全で快適に歩行・走行しやすい環境を整備します。

主な整備方針

広域幹線道路

『中部縦貫自動車道』の県内全線開通を目指し、関係機関に整備推進を働きかけます。
全線開通後は、国土レベルの広域幹線道路として4車線化を働きかけます。

幹線道路

吉野地区の活性化や災害時の連絡道路となる『吉野福井線バypass』の整備促進を働きかけます。

補助幹線道路

福井北JCT/ICからのアクセス道路となる『(都)芝原吉野堺線』の整備促進を図ります。

安全安心な道路

歩道が未設置である『町道御陵32号線』等の歩道整備により、安全な歩行空間を確保します。
福井大学医学部付属病院に通じる『県道北野松岡線』等の消雪設備の整備促進を図ります。



『中部縦貫自動車道』の福井北JCT・IC、松岡IC付近



白山連峰を背に雪田を走る『えちぜん鉄道』

都市づくりの基本方針

景観づくりの方針

永平寺町景観計画に基づき、風景まちづくりを推進します。

基本的な考え方

風景まちづくり	九頭竜川や大本山永平寺、地域の自然、歴史・文化、産業が織りなす風景まちづくり
まちを活性化	風景まちづくり運動により、地域を元気に、永平寺町を活性化
協働・継承	住民・地域・事業者・行政が協働して永平寺町の風景を守り育て、次世代へ継承

整備方針(風景まちづくりを推進するリーディングプロジェクト)

町全域ソフト 永平寺町風景まちづくりの普及啓発・参画『町民全員参加の風景まちづくり運動』

町全域ハード 四季を彩り、永平寺町らしさを感じる風景づくり『背景・地づくり』

- ① 体感できる禅、スピリチュアル・ランドスケープの『大本山永平寺』
- ② 藩政時代を偲ぶ城下町と旧街道『松岡十二曲り』
- ③ 浄法寺山を背に九頭竜川を臨む、新たな産業交流拠点の『九頭竜川志比北リバーサイド』
- ④ 温泉や道の駅を活かした町民の憩いとレクリエーション『上志比タウン』
- ⑤ 田園豊かで若者が集う学園拠点の『県大永平寺キャンパスエリア』



整備が完了した門前地区の『旧参道』、『永平寺川』、大本山永平寺『親禅の宿 柏樹閣』



『福岡県立大学』の中高層ビル群

公園緑地の整備方針

基本的な考え方

- ・九頭竜川の清流や深緑の適正な管理と保全に取り組み、親しみやすくなるような環境づくりを進めます。
- ・恵まれた自然環境を活かしながら、花や緑で彩られた心やすらぐ都市づくりを進めていくため、住民や事業者、行政がともに協力し合い、積極的な緑化や除草など適正な維持管理に取り組みます。
- ・身近に憩える公園を確保するとともに、利用者ニーズに沿った質の高い公園の充実を進めます。
- ・災害を未然に防止するため、森林や河川を保全するとともに公園を活用した災害に強い都市構造を構築します。

主な整備方針

風致公園	『松岡公園』は、遊具の整備やイベント団体への支援など、機能の充実・魅力ある公園づくりを推進します。
街区公園	市街地内の歩いて行ける範囲に街区公園を配置し、住民・行政が連携し、適正な維持管理に取り組みます。
運動公園	『松岡総合運動公園(you me パーク)』、『緑の村運動広場』、『上志比グラウンド』等の運動場は、住民の多様なレクリエーション需要や災害時の避難・復旧拠点を担う防災機能の充実を図ります。



高台にある桜の名所『松岡公園』から見渡せる松岡の市街地



『松岡公園』の眺望園地で遊ぶ子どもたち

都市づくりの基本方針

安全安心な都市づくりの方針

基本的な考え方	主な整備方針
【災害に強い都市基盤づくり】 道路、橋梁、河川及び建築物等の安全性を高めるなど、災害に強い都市基盤づくりを進め、各種災害による被害の防止及び軽減を図ります。	・道路の整備推進と代替路線の確保 ・橋梁の安全性確保 ・建築物の耐震化促進 ・住宅地における防災対策の充実
【地域特性による防災上の課題克服】 本町の地域特性による防災上の課題を克服し、住民が安心して快適な生活を営むことができる、きめこまかい対策を推進します。	・災害警戒区域等の周知徹底 ・土地利用の誘導による被害の軽減 ・河川の治水対策や土砂災害対策の推進 ・雪害対策の推進
【犯罪や交通事故が起こりにくい市街地づくり】 施設の配置・設置、道路の改良等により、犯罪や交通事故が起こりにくい市街地づくりを推進します。	



永平寺町洪水ハザードマップ



国道416号沿いの『道の駅 禅の里』



『城山』から見た永平寺地区の市街地

環境に優しい都市づくりの方針

永平寺町環境基本計画に基づき、環境に優しい都市づくりを推進します。

基本的な考え方	主な整備方針
【自然共生社会の推進】 自然の保護・再生や里地里山の豊かな自然の保全等を推進します。	・森林の有する多面的機能の保全 ・山や登山道等の整備
【低炭素社会の推進】 低炭素社会への転換のため、再生可能エネルギーの推進を図ります。	・公共交通機関の利用促進 ・住宅・ビル等の省エネルギー対応
【歴史・文化と景観の保全】 町の歴史・文化的遺産等を大切に守り、景観の保全・創出を図ります。	・歴史的・文化的遺産の継承 ・景観づくりの推進
【生活環境の保全】 公害の防止等に向けた事業所への指導や住民への啓発に取り組めます。	・住民一斉清掃や九頭竜川クリーンアップ 作戦 ・下水道への接続普及促進



清流『九頭竜川』と背景の山なみ(上志比地区)



北陸最大級の大きさを誇る『手繰ヶ城山古墳』

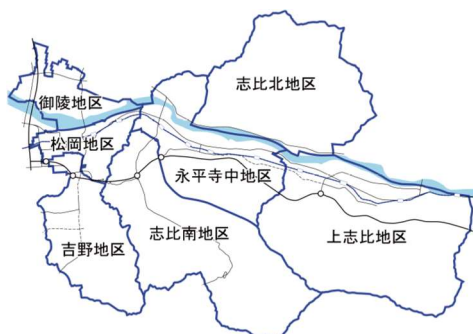
地区別まちづくり構想

地区別まちづくり

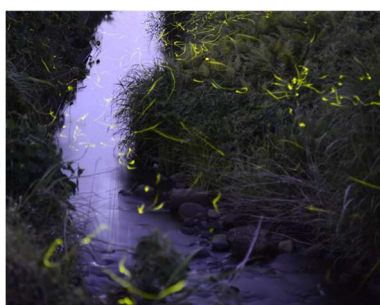
暮らしやすいまちを実現するためには、地域住民と行政がまちの将来像を共有し、役割分担のもとに連携してまちづくりを進めることが大切です。

今回、町内7地区でそれぞれ2回ずつ意見交換会を開催し、住民の皆さんの意見を反映した『地区別まちづくり構想』を作成しました。

地区	まちづくりのテーマ	まちづくりの目標
松岡地区	人とのつながりで歴史薫る文化を 培うまち「松岡」	・市街地の土地や空き家を有効に活用したまちづくり ・安全・安心なまちづくり ・歴史が息づき、人が行き交うにぎわいづくり ・豊かな自然と景観を活かしたまちづくり
吉野地区	森と水に多世代が集い、暮らす ホタルの里「吉野」	・多世代が集い、住み続けやすいまちづくり ・豊かな自然環境をテーマにした地域づくり ・蔵王山の活用と山岳信仰の歴史の伝承 ・中部縦貫自動車道の利便性を活かした地域づくり
御陵地区	交流が育む 田園と調和した 学生と地域のきずなのまち「御陵」	・大学・専門学校・医療・地域の交流を生み出すコミュニティづくり ・恵まれた田園や河川を活かしたまちづくり ・田園の中の学園都市にふさわしい環境づくり ・暮らしやすく、安全・安心な生活環境づくり
志比南地区	地域を結び 歩いて、乗って、住んで 楽しむ「志比南」	・自然と歴史を楽しむ交流のまちづくり ・地域住民と行政のしっかりした連携づくり ・深山幽谷の禅の里にふさわしい環境づくり ・暮らしやすく、安全・安心な生活環境づくり
永平寺中地区	自然・歴史・文化を未来につなぐ 永平寺の参道口「永平寺中地区」	・大本山永平寺への参道口としての魅力の向上 ・まちづくり資源のネットワークづくり ・住民同士が集い、ふれあえるコミュニティづくり ・暮らしやすく、安全・安心な生活環境づくり
志比北地区	豊かな自然を活かした地域づくり 「志比北」	・「食」や「まちづくり」を通して広がるコミュニティづくり ・豊かな自然を活かした地域づくり ・地域特性に配慮した定住環境の形成と交通環境の改善
上志比地区	清流と緑が溢れる 住みよい ふれあいの里「上志比」	・豊かな自然と景観を活かしたまちづくり ・みんなが集い、活動がひろがるコミュニティづくり ・地域資源を活かしたまちづくり ・暮らしやすく、安全・安心な生活環境づくり



町内7地区の区分図



吉野地区の荒川を飛び交うホタル

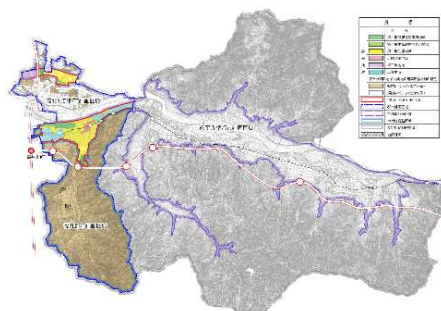


地区の皆さんとの意見交換会

都市づくり・まちづくりの実現化に向けて

■ 都市づくりの目標の実現に向けた施策

目 標	項 目	施 策
目標1 活力とにぎわいを創出する多様な拠点の形成	新しい時代に対応した産業が立地しやすい拠点づくり	○企業が立地しやすい条件整備【都市計画の見直し】 ・町の発展に結びつく産業の立地を目指し、都市計画区域や区域区分の見直しに関する町の考え方を整理します。 ・検討を進め、福井県や農政局などの関係機関と協議を進め、実現化を目指します。 ○アクセス道路の整備や都市施設の整備
	暮らしを支える拠点の機能強化	○空き店舗の発生防止や空き家の利活用 ○魅力ある良好な宅地開発や、若い世代をはじめとする幅広い世代の定住の場づくりの推進
目標2 交流を支える軸の形成	広域での交流を支える交通網の整備	○中部縦貫自動車道の全線開通と4車線化促進 ○県道北野松岡線、県道吉野福井線バイパス(納戸坂線)などの整備促進
	町内の移動環境を支える公共交通サービスのネットワークを構築	○住民自らが運転手となって運営する『近助タクシー』の拡充、支援 ○自動走行運転『ZEN Drive』の進化、普及、推進 ○本庁舎及び各支所の最寄駅の利便性向上・機能拡充
目標3 快適で暮らしやすい質の高い市街地の形成	防犯や防災に備えた居住環境の確保	○老朽空き家等解体補助などによる空き家対策の促進 ○木造住宅の耐震診断・改修補助などによる建築物耐震化の促進 ○除却補助などによる倒壊危険性の高いブロック塀の除却 ○土砂災害計画区域等、災害の恐れのある区域の開発行為を抑制 ○ハザードマップの配布や避難訓練による住民の防災意識の高揚
	うるおいあふれる景観の形成	○伝統的民家や土蔵等の改修等への支援 ○大本山永平寺や歴史的な街並みを活用した風景まちづくり
	身近な公園・オープンスペースの確保	○住民の憩いの場として松岡公園等の既設公園の再整備 ○身近な公園の一時避難場所としての整備
目標4 豊かな自然環境との共生	自然共生社会の推進	○九頭竜川と山並みの一体的な眺望景観の保全と活用 ○大佛寺山のブナ林等の保全や森林保育(間伐、枝打ちなど)の推進
	田園居住の都市づくり	○優良農地の保全。豊かな自然環境に影響を与える施設の立地防止 ○住環境づくり推進のため、建築協定や地区計画制度の活用 ○地方回帰の推進。テレワークやサテライトオフィス等の拠点を整備 ○大学や病院等を活かした永平寺町モデルの田園居住の検討、推進



町の発展に結びつく産業の立地を目指し、『都市計画区域等の見直し』を検討



日本初のiVAL3自動走行運転の実用化。
永平寺町自動運転『ZEN drive』



地域が担う、住民参加型の自家用有償旅客運送『近助タクシー』の運行

都市づくり・まちづくりの実現化に向けて

■ まちづくりの推進体制について

●まちづくりの役割分担

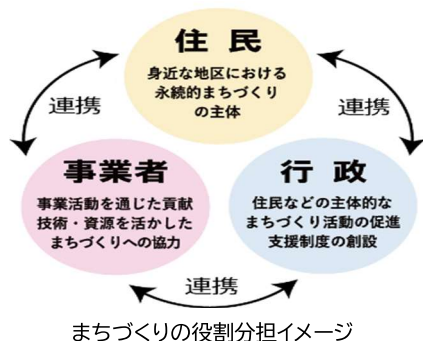
- ・都市づくり・まちづくりの実現に向け、住民・事業者・行政がまちづくりに対する役割を認識し、連携して、まちづくりを進めます。

●まちづくりの意識高揚と活動の支援

- ・まちづくりセミナーやまち歩きなどを通じ、住民や事業者のまちづくりに関する意識の高揚に努めます。また、地域の自然や文化等に親しむ機会を充実し、ふるさとを愛する心を育みます。
- ・町内に大学が立地する特徴を活かし、若者や学生が地域活動やまちづくりに興味を持ち、参画し、活躍できる環境づくりを推進します。

●まちづくりの推進体制の充実

- ・整備施設や都市基盤の十分な維持・活用を図りつつ、限られた財源を効果的に投資していくため、整備の必要性や事業効果などを検討し、計画的なまちづくりを進めていきます。
- ・公共事業の推進や土地利用の誘導規制など、国や県、周辺市町及び関係機関との連携強化を図ります。



まちづくりの役割分担イメージ



まちづくりセミナーの開催



大本山永平寺門前参道でのまち歩き

■ 都市計画マスタープランの進行管理

- ・都市計画マスタープランは、概ね20年先の将来を展望した都市づくりの方向性や方針を示していますが、少子高齢化の進展、自然災害の頻発、地方分権の進展など本町を取り巻く社会経済情勢が大きく変化した場合、あるいは社会情勢の変化に応じて上位計画が大幅に見直された場合は、必要に応じて都市計画マスタープランを見直します。
- ・計画期間の半ばである10年後には、社会情勢の大きな変化や計画の大幅な進捗が想定されることから、計画を全体的に見直します。

『都市計画マスタープラン』とは、都市計画法第18条の2に位置づけられる「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、永平寺町総合振興計画などを踏まえて、永平寺町における都市の将来像、土地利用や地域ごとのまちづくりの方針等を定める都市づくりの総合的な指針です。

本計画では、『都市づくり』を「土地利用や交通、公園等に関する課題を解決するための都市計画による施策や取り組み」、『まちづくり』を「町を暮らしやすくするための地域課題を解決していく、住民も参画した活動や取り組み」としています。

問合せ先

永平寺町 建設課

〒910-1192 福井県吉田郡永平寺町松岡春日1-4

電話 0776-61-3948(直通)、FAX 0776-61-2474

Eメール kensetsu@town.eiheiji.fukui.jp



発行:令和4年6月